

## 出版情報

書名・件名	厚生白書(昭和31年度版)
副書名	国民の生活と健康はいかに守られているか
編集者・監修者	厚生省
所在地	東京都中央区日本橋本石町三丁目二
国名	日本
発行日	昭和三十一年十二月十日
価格	260円

## 厚生白書発表に当って

厚生省は、このほど「わが国民の生活と健康はいかに守られているか」を明らかにして、全文およそ十五万字を超える「厚生白書」を発表することになった。ゆりかごから墓場まで——という、国民生活のすべてにふれる行政の実態を、ありのまま国民に報告することによって、国民の理解に資せんと志したものである。

もともと、政治といい行政といい、すべては国民の理解と納得と、そこに生まれる支持と協力があって初めて順調に発展成長するものであるが、厚生行政の進展には、わけてもそのことが強く指摘される。この白書が、この目的達成の一助ともならば幸いである。

昭和三十一年一〇月五日 小林 英三 厚生大臣

### 序

社会保障制度という言葉が一般用語として耳馴れてきたのは、ごく最近のことである。それだけに、この制度の働きが国民のすべてによって正確に認識されているかどうか——ということになると、遺憾ながら肯かれない場合が少なくはない。いわんや、理論的に制度の本質を理解し、また、これからの国民生活の上で、この制度にどのような働きを期待すべきか——といった認識となると、まだまだ道ははるかなるを思わせるものがある。

社会保障制度とは、言ってみるなら「貧困と疾病の脅威からわれわれの生活と健康を守ろうとする国民的努力の現われ」にほかならない。いうところの厚生行政とは、主としてこの「社会保障制度」と呼ばれる行政の分野を担当しているのであるが、この小冊子は、その国民的努力の現われとして政府の手に信託されている厚生行政の現況を、国民の前に明らかにすることを目的としてまとめられたものである。

敗戦から十余年、その間、国民がこの制度の働きによってどのように困難を克服し、どのように苦難を解決してきたか、そしてまた、われわれ国民のお互いが、現在どのような問題を抱えいかに悩んでいるか——についてのあらましを国民の前に明らかにすることは、これからの国民の生活に直接つながっているいろいろの問題を解決するために重要である。しかも、このことは決して特定の指導階層の人々だけに知って貰えばよいものではなく、およそこの国土の中に生きる一員である限り、すべての人々によって理解され納得されなければならないものである。その理解と納得と、そしてそこから生まれてくる力強い協力支援が望ましいのである。

官庁の刊行物はとかく文章が生硬にすぎて読みづらいという従来からの世評にこたえ、できるだけ平易な表現をと心がけてみたが、まとめられたものを見ると、依然としてそのそしりは免かれがたいようである。また、原文は省内各局部課の担当官の分担によって執筆され、統計調査部の協力を得てまとめたもので、全般としては統一された文体になっていない点も指摘されることと思われるが、このことは、この種の刊行物にある程度避けられないものとして御寛恕願いたい。なお、読後、内容その他お気付の点について御高評を頂戴できたらと、次年度のためにお問い合わせ次第である。

昭和三十一年一〇月 厚生大臣官房企画室

*(C)COPYRIGHT Ministry of Health , Labour and Welfare*